

赤星

THE SEKISEI (RED STAR/ROTE STERN)

編集 共産主義者同盟 (DER BUND DER KOMMUNISTEN)

発行所 蜂起社 東京都江東区大島3-9-25/TEL 03-5626-8262

発行人 南 安明 (振替) 00120-2-1512 蜂起社・南安明

月刊

3月2006年 No.53 (通巻395号)

本号300円

年間購読料: 1部3000円 (送料別)
(送料) 密封1000円 開封800円

紙面案内

- ① 米戦略破綻と中東・パレスチナ
- ②-③ 反グローバリズムと新しい左翼運動
- ③ 沖縄・反戦運動/三里塚
- ④ 『ノガタ/土方』上映へ/山谷/共謀罪

お知らせ 次号は4月中旬発行です。



2月8日、フランスのNO-VOX (声なき者) の活動家数十人は1.30大阪の野宿者強制排除に抗議するためパリの日本政府観光局を3時間にわたって占拠!「持たざる者」は国境を越えて連帯した。

怒りの抵抗、連帯!

「持たざる者」は国境を越えて連帯する!

イラク・パレスチナの占領を終わらせよう!

中東情勢とブッシュ戦略の破綻

出口がまったく見えない「テロとの戦い」によって「世界の民主化」を声高に叫ぶブッシュ政権の足元を中東情勢が揺さぶっている。親米政権の樹立を図ろうとして占領したイラクでは、親イランのシーア派イラム勢力の台頭を招き、宗派間対立による「内戦」さえ懸念されるほど情勢の泥沼化に拍車がかかっている。イラク情勢は、米国内の世論をますます「撤兵」に傾けさせているのだ。

米紙ワシントン・ポスト

は3月7日付紙面で、ABCテレビの共同世論調査の結果を発表。「米軍はイラクから撤退を開始するべきだ」とみる人は全体の52%に達し、9カ月前の調査から14ポイント増えた。イラク戦争は犠牲を払う価値があると考える人は42%で、03年末の59%に比べて大きく減った。

しかもイランには対米強硬派政権が誕生、核開発問題でも米など対立を深めている。レバノンでは米がテロ組織と非難しているイスラム教シーア派武装勢力ヒズボラが選挙で躍進。1月のパレスチナ自治評議会選挙では、大方の予想を覆して対イスラエル武装闘争派のイスラム勢力ハマスが過半数を制した。中東各国の議会選挙でイスラム勢力が連戦連勝し、米ブッシュ政権が「民主化」のパロメ

イターとして自由で公正な選挙を奨励してきた「中東民主化構想」自体が反米イスラム勢力の台頭を招くといい皮肉な結果に直面しているのだ。

パレスチナでの「ハマス圧勝」に象徴されるように中東各国で民主的な選挙が実施されるほどイスラム勢力が台頭している背景には、政府に批判的な民衆の支持を集約すべき既存の対抗勢力が力を失ったり、ブレゼンスを後退させる中で、選挙を託す選択肢がイスラム勢力しか見あたらないといった、中東各国に共通する政権の汚職・腐敗体質の払拭と貧困からの脱却を切望する民意を吸収する受け皿として期待されたからだ。民衆の政権批判の声を応えられ対抗勢力として左翼勢力PFLPなどが低足を脱することができない限り、イスラム勢力の躍進は止まらないであろう。

したがって、パレスチナでのイスラム勢力ハマスの躍進も、利権漁りの体質を払拭できずイスラエルに対しても一方的に譲歩・妥協するばかりのファタハ現自治政府指導部への占領下で貧困と抑圧にあえ、民衆の「不信任」の表明であり、「自分たちが以前にも増して貧しくなり、自由でなくなっていることを身をもって知っている」(2月1日「ナパルス通信」)パレスチナ人が「変化と改革」ハマスの選挙リスト名を選択した結果であって、イスラム教

へのイデオロギー的傾斜の表れと見るべきではない。パレスチナ中央選挙によると(投票率は77.18%)、比例代表制の最終得票率は、ハマス44.45%、ファタハ41.43%、PFLP 2.92%、独立パレスチナ2.72%、第三の道2.41%などであった。

ハマスの次期首相ハニヤ氏は、パレスチナ人の苦境を自らの難民としての体験を通して訴え「ガザの難民キャンプは貧困の象徴、ここから私は動かない」と述べている。ハマスが掲げている①第3次中東戦争(67年)の占領地(ヨルダン川西岸)からの全面撤退と入植地の撤去、②隔離壁の撤去、③全ての難民の帰還、④全政治犯の釈放、という要求は、国連の安保理や総会が決議されたことの実施を求めたものであり、核兵器を所有し抵抗運動の活動家を暗殺を繰り返しているイスラエルのパレスチナ占領を終わらせる責務が国際社会にはあるのだということを喚起するものだ。

全パレスチナ人800万人の約6割が故郷を追われ「難民」であり、約5割が1日2ドル以下の困窮を余儀なくされた「貧民」——貧しさゆえに学校や病院にさえ行けない人々——であり、三人に一人が失業者である。まさにパレスチナ人は、イスラエルによる占領下で貧困と失業と排除に苦しんでいる「持たざる者」

である。自由と解放を求めるパレスチナ民衆の抵抗運動に連帯し「パレスチナに自由を」と声をあげることは、「持たざる者」の国境を越えた連帯を目指す者にとって、また「反帝・反グローバリズム」と新しい国際主義」の旗を掲げて新しい左翼運動・共産主義運動の再生を目指す者にとって、歴史的な使命である。

パレスチナ民衆の抵抗の記念日「3・30土地の日」30周年(3・25パレスチナ連帯集会へ)(1時半・日本キリスト教会館)

併合政策前面にしたイスラエル

「ハマス圧勝」に衝撃を受けたイスラエル政府は2月19日、パレスチナ自治政府の代わりに徴収している輸入関税と消費税などの引き渡しを停止することを決定した。自治政府は年間予算の3分の1近く占める5億(約590億円)を失うことになり、約15万人の政府職員が給料支払いなどへの打撃になることは必至だ。イスラエルに国境を管理する責任は封鎖された占領下にあるパレスチナの経済は、自治政府の財政の半分以上を国際社会からの援助に頼らざるを得ない。さらにパレスチナの水、電気もほとんどがイスラエルに依存している。この経済構造から自力で脱却することは容易ではない。

イスラエルの首相代行オメルトは「ハマスが主導することで自治政府は実質的にテロ集団」と断定。国防相モフアズもまた、次期首相に指名されているハマス

の例外ではない(3月7日)と述べるなど、イスラエル政府は、ハマス主導のパレスチナ新政権に敵対する姿勢を明確にした。

しかも今月28日に予定されているイスラエル総選挙で第一党の座を狙う現与党カディマ(前進)を率いるオメルトは、新政権発足後には昨年夏のガザ地区からの全入植地の撤去に引き続き、ヨルダン川西岸からの追加撤退に着手し、約4年間で西岸に点在する大小120以上の入植地のうち中小の入植地を順次撤去して大規模入植地(エルサレムに近いマール・アドミム、グシュ・エツィオン、アリエルの三大入植地)に統合、現在建設中の隔離壁でイスラエル領側に取り込み「併合」することによって、パレスチナの「国境」を一方的に画定する意向を表明した。(9日)これは米国などが03年に示したパレスチナ新和平案「ロードマップ」の放棄を明言したことに等しい。

イスラエルやその後ろ盾である米は、ハマスに「イスラエルを認め、さもなれば経済制裁だ」と脅しをかけている。これは本末転倒もなほだしい。被占領者(パレスチナ)に占領者(イスラエル)の存在を認めると恫喝すること自体が理不尽極まりないことだ。欺瞞に満ちた構構にすぎない「和平」への屈服を迫る米などに対して、さすがにアラブ諸国やイランなどは、ハマスに代替援助を約束した。イスラエル・シオニストは短期的には帝国主義の受益者だが、究極的には衰退していきこうになる。

反グローバリズムと新しい左翼運動

〈慎渡〉



94年1月1日、メキシコ・チアパスで武装蜂起したサパティスタ(写真はマルコス副司令官)は、グローバリズムに反旗を翻すシンボルとなった

社会的排除に抵抗する「持たざる者」

世界中で反グローバリズム運動が大きなうねりを見せている。このうねりは、国際情勢の激変、左翼運動の低迷・後退と相まって、大きく後れを取っている。フランスや欧州を反グローバリズム運動の「先進国」とすると日本はいわば「発展途上(後進国)」にある現実を認めざるを得ない。革マル派や日本共産党といった新旧の「腐れ左翼」の中には自らの「立ち遅れ」を直視せず、そればかりが反グローバリズム運動が自分たちのセクテリ利益とてわなわな(当然だ!)と見て、「十年一日」の古いやりかたを現状維持に腐心するばかりだ。それでもグローバリゼーションが世界を席巻し、虐げられたプロレタリア民衆の怒り・抵抗を連帯を増大させ、グローバリズムに反抗する「カウスター・パワー」を世界の至る所に宿さずにはおかない、反グローバリズム運動

のうねりが次第に大きなうねりとなって、国際情勢の激変、左翼運動の低迷・後退と相まって、大きく後れを取っている。フランスや欧州を反グローバリズム運動の「先進国」とすると日本はいわば「発展途上(後進国)」にある現実を認めざるを得ない。革マル派や日本共産党といった新旧の「腐れ左翼」の中には自らの「立ち遅れ」を直視せず、そればかりが反グローバリズム運動が自分たちのセクテリ利益とてわなわな(当然だ!)と見て、「十年一日」の古いやりかたを現状維持に腐心するばかりだ。それでもグローバリゼーションが世界を席巻し、虐げられたプロレタリア民衆の怒り・抵抗を連帯を増大させ、グローバリズムに反抗する「カウスター・パワー」を世界の至る所に宿さずにはおかない、反グローバリズム運動

「新しいユニオニズム」は、したがって、女性、有色人種の労働者、移民労働者など、旧来のユニオニズムから排除された労働者(数の上では多数)の組織化を、社会的正義や公正をめざす運動として形成されることになる。(Coop)

「労働運動と社会運動との連携は、労働運動を狭い経済・労働市場の領域からより広い社会的政治的世界に引き出すことになる。」(2004頁)

「貧困問題の解決」ということは、今日、資本家やブルジョア政治家も、その建前として口にせざるを得ない。この背景が厳然としてある。G8サミットの主要テーマにすぎない。殺りかめもなくなる。人々を搾取し抑圧し排除する不正不平等な社会の仕組みを根絶から変える限り、失業や貧困による苦しみが増すばかりだ。その生存権を暴力で脅かすラシの暴動に端的に象徴されているように、教育や就職の機会から排除され失業や貧困、社会的排除に苦しむ移民・世・世をほじめとした「持たざる者」の怒りのレジスタンスを燃え上げざるにはいられないのだ。

「火への訴えかけ」とはつまずき、コミュニケーションの回路から排除されたと感じる人々にとり、自分たちの不可視性と沈黙のお膳立てをする「共謀」に立ち向かって、自らの姿、目に見え、また聞かせるものにするための手段である。」(「フランス暴動の深層」プラン・プロサ、2005頁)

「世界」2月号) 1月30日、「ホームレス」を「働く意欲のない怠け者」と蔑み、彼ら彼女らに「持たざる者」の苦しみを組織し、……社会的正義や公正をめざす運動として形成されることになる。」(Coop)

「労働運動と社会運動との連携は、労働運動を狭い経済・労働市場の領域からより広い社会的政治的世界に引き出すことになる。」(2004頁)

「貧困問題の解決」ということは、今日、資本家やブルジョア政治家も、その建前として口にせざるを得ない。この背景が厳然としてある。G8サミットの主要テーマにすぎない。殺りかめもなくなる。人々を搾取し抑圧し排除する不正不平等な社会の仕組みを根絶から変える限り、失業や貧困による苦しみが増すばかりだ。その生存権を暴力で脅かすラシの暴動に端的に象徴されているように、教育や就職の機会から排除され失業や貧困、社会的排除に苦しむ移民・世・世をほじめとした「持たざる者」の怒りのレジスタンスを燃え上げざるにはいられないのだ。

「火への訴えかけ」とはつまずき、コミュニケーションの回路から排除されたと感じる人々にとり、自分たちの不可視性と沈黙のお膳立てをする「共謀」に立ち向かって、自らの姿、目に見え、また聞かせるものにするための手段である。」(「フランス暴動の深層」プラン・プロサ、2005頁)

「世界」2月号) 1月30日、「ホームレス」を「働く意欲のない怠け者」と蔑み、彼ら彼女らに「持たざる者」の苦しみを組織し、……社会的正義や公正をめざす運動として形成されることになる。」(Coop)

反グローバリズムの象徴 サパティスタ

「握りの金持ちが富にあり、この「持たざる者」の底辺にマーシャル化された「持たざる者」の目と耳が響かされている(ケル・ケル、韓国ドラマ「パリの出来事」の台詞から)、失業と貧困に苦しんでいる。こんな不正で理不尽な社会が、限り、その犠牲を被って虚げられる人はなくなる。脅威を煽り暴力をむき出す「持たざる者」の国際連帯行動が、殺りかめもなくなる。人々を搾取し抑圧し排除する不正不平等な社会の仕組みを根絶から変える限り、失業や貧困による苦しみが増すばかりだ。その生存権を暴力で脅かすラシの暴動に端的に象徴されているように、教育や就職の機会から排除され失業や貧困、社会的排除に苦しむ移民・世・世をほじめとした「持たざる者」の怒りのレジスタンスを燃え上げざるにはいられないのだ。

「火への訴えかけ」とはつまずき、コミュニケーションの回路から排除されたと感じる人々にとり、自分たちの不可視性と沈黙のお膳立てをする「共謀」に立ち向かって、自らの姿、目に見え、また聞かせるものにするための手段である。」(「フランス暴動の深層」プラン・プロサ、2005頁)

「世界」2月号) 1月30日、「ホームレス」を「働く意欲のない怠け者」と蔑み、彼ら彼女らに「持たざる者」の苦しみを組織し、……社会的正義や公正をめざす運動として形成されることになる。」(Coop)

が、労働組合の「ミドルクラス中心」の多数派になる。他方、失業と貧困に苦しむ、社会的に排除された「シニアル(周縁)化された「持たざる者」と連帯して社会運動と連帯することをコンセプトとした反グローバリズム派は少数派である。これを余儀なくされるのである。正規職と非正規職・パートとの賃金・労働条件の格差を長く放置してきた連合でさえ、パートは正規職の賃金と雇用を守る調整弁」と考えられた従来の意識を改める必要性を要すると認めるようになった。

日本の左翼のほとんどは社会的排除と闘い社会的な公正・平等・連帯を求めることになった。無関心であり、したがって(運動課題にはせよ)失業や貧困に苦しむ社会から排除され、労働運動な運動圏からもマージナル化されてきた存在「持たざる者」の苦しみを組織し、……社会的正義や公正をめざす運動として形成されることになる。」(Coop)

「労働運動と社会運動との連携は、労働運動を狭い経済・労働市場の領域からより広い社会的政治的世界に引き出すことになる。」(2004頁)

「貧困問題の解決」ということは、今日、資本家やブルジョア政治家も、その建前として口にせざるを得ない。この背景が厳然としてある。G8サミットの主要テーマにすぎない。殺りかめもなくなる。人々を搾取し抑圧し排除する不正不平等な社会の仕組みを根絶から変える限り、失業や貧困による苦しみが増すばかりだ。その生存権を暴力で脅かすラシの暴動に端的に象徴されているように、教育や就職の機会から排除され失業や貧困、社会的排除に苦しむ移民・世・世をほじめとした「持たざる者」の怒りのレジスタンスを燃え上げざるにはいられないのだ。

「火への訴えかけ」とはつまずき、コミュニケーションの回路から排除されたと感じる人々にとり、自分たちの不可視性と沈黙のお膳立てをする「共謀」に立ち向かって、自らの姿、目に見え、また聞かせるものにするための手段である。」(「フランス暴動の深層」プラン・プロサ、2005頁)

「世界」2月号) 1月30日、「ホームレス」を「働く意欲のない怠け者」と蔑み、彼ら彼女らに「持たざる者」の苦しみを組織し、……社会的正義や公正をめざす運動として形成されることになる。」(Coop)

(3)面に続く

